

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	羽石 英里
主な担当科目	卒業論文(原著講読含む),音楽療法文献講読研究Ⅰ,音楽療法文献講読研究Ⅱ,博士特別運営研究①,博士特別運営研究②,博士論文演習①,博士論文演習②
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	ギターのクラス授業についてはもともとの経験の差があるので、それぞれの伸びしろに即した評価をすることを最初に伝え、初心者でモチベーションが下がらないように配慮した。卒論のように学生自身が個別に取り組む研究については、先行研究を十分に調べ内容を把握した上で、新規の研究として意味のあるものであり、かつ本人が本当におもしろいと思えるものに取り組むように指導した。
2023年の教育に関 する自己評価	自分なりにコツコツと取り組める学生もいる一方で、パフォーマンスに著しくムラのある学生や言葉の問題で(留学生なので)学習の成果を上げにくい学生もいる。学生によっては厳しくしつつもモチベーションを下げないように対応することに取り組んだ。
2023年のFD活動 に関する自己評価	学部、大学院とも社会人学生や留学生が増えているが、音楽療法士認定の関係から大学院生で音楽療法がはじめての日本人、留学生も増えた。様々な教員とその課題を共有し、サポートの方法や程度を検討することができた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	まだこの多様な課題に対応する方法が明確になっているわけではないが、他の授業担当の教員からの情報で共通する部分や自分の授業では見えない面もみえてくる。指導方法はいろいろあるが、こちらの価値観、学びの道筋をしっかりと伝えることが大切であることが確認でき、それを心にとめて授業に臨んだ。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1414 教員名:羽石 英里

1) アンケート結果に対する所見

音楽療法テクニックⅡについては、今年度は博士のティーチングアシスタントと組んで授業をすすめた。そのため、これまでは紹介しなかったテクニックやジャンルの曲も試しながら行ったので授業の幅が広がったと思う。一方、もう少し授業内での学生とのコミュニケーションを深めることができるとよいと思った。音楽療法文献講読研究Ⅱは、日本人の学生と留学生が共通言語でもある英語を読むという興味深い状況であった。学生の英語力の違いはあるので補助的に翻訳ソフトを使用することは許可して、音楽療法に関連した内容をそれぞれの文化的背景も踏まえて討論することができた。

2) 要望への対応・改善方策

いずれの科目も具体的な要望はでていないが、多様化する学生たちに何が必要かを見極める必要がある。

3) 今後の課題

できるだけ一人一人とのコミュニケーションを密にしながら、授業を展開していきたい。

以 上